



プロジェクト88



関係各位

有限会社エコ・ライス新潟



小麦・乳・卵アレルギーの子供を発見。

越後湯沢「赤ちゃん一時避難プロジェクト」

できたて米粉スイーツを子供達に届けました！

「助けて」と声をあげられない母親達を子供のお菓子で発見

○ 母親、子供が安心して避難生活ができる ○



アレルギーの母親に説明をするガトウ専科松井社長。

新潟県内には福島県を中心に 8000 人を越える方が避難生活をしています。越後湯沢のリゾートホテルを活用した「赤ちゃん一時避難プロジェクト」は、被災地の厳しい環境におかれている、これからの社会を担う幼いのちを救うため、赤ちゃんや小さなお子さんとそのお母さんやご家族を民間の宿泊施設に受け入れ、母子ともに十分な休養と栄養をとり、継続的な医療サポートを受けられる NPO 法人と自治体とが連携して進めているプロジェクトです。

体育館などでの集団で生活は、母親、子供をはじめ生活リズムに違う周囲の避難者にお互いにストレスとなるし、感染症などの蔓延も気になります。リゾートホテルの個室でプライバシーが守られながら、同じ親子の立場の避難者が集まるこのプロジェクトは母親、子供にとって大変素晴らしい取り組みです。

○ 「うちの子供食物アレルギーなんです！！」 ○

プロジェクト88では、ガトウ専科とコラボして、「米粉」を活用したスイーツを開発しています。この日も東京家政大3年高橋菜里さんと「米丸」「米粉ラスク」「米粉クッキー」を作り、赤ちゃん一時避難所にプレゼントをしました。夕食に集まる親子に「小麦、乳、卵を使わないお菓子です！」と説明をして渡しました。すると、「うちの子供食物アレルギーなんです。食べられますか！」と喜びの声。

90組の親子が避難していますが、赤ちゃんプロジェクトの事務局が把握していた食物アレルギーの子供は1人だけでした。しかし、お菓子を配布できた約40組のうち3組（5名）が食物アレルギーでした。話を伺うと「食物アレルギーと言いつけられない・・・。」とのこと。赤ちゃん一時避難所でさえも言いつけられない現実は、一般の避難所で生活をする母親が声をあげられないのは当然です。

避難しながら子育てをする食物アレルギー児をもつ母親の声を拾えないものか、課題は山積です。



今回も高頭パテシエを悩ますことに・・・。米粉の原料配合、練り方などを工夫し前回よりも柔らかく日持ちのする「米丸」に完成。でも高頭さんは納得せず。



焼きあがったクッキーを丁寧に8枚ずつ袋に詰める。これが大変難しい！包装した外見まで考えなければ食べてもらえない。栄養学以外の要素も大切になります。



米粉スイーツと紙おむつ、そして、粉ミルク用のペットボトルの水も持って行きました。子供の日にも同じ分を支援。ニーズにあわせ小分けに届けることが重要。



原発避難区域から10km離れたところから避難。子供への影響を考へて移住するかわき市に戻るか音程。1時間近く、地震発生から現在までの話を伺いました。